

第4回有識者会議での主なご意見

【全体】

- 関西らしさがもっと欲しい。
- 西日本の中心、親分たる関西、というのを表に出していきたい。
- ソフト面についても、関西人や関西の地域性・雰囲気を特色的なものとして、関西らしさが出れば良い。
- 新しく先進的なものは関西から、ということで万博のレガシーをもう少し強く打ち出すのも有り。
- これまで通りの管理手法でなく、用途を変えながら、従来型ではないアイデアを持って新たな施設運営を考えていくのがマネジメントで、地域のマネジメントという概念を関西でもうまく打ち出していきたい。
- ここから新しいものが出てくる、フロンティアをつくっていく、という関西らしさの取りまとめが必要。21世紀のウェルビーイングを支える柱はいくつかあるが、働き方改革、ウェルビーイング、多様性が大きな柱になるのは紛れもない事実。
- 関西らしさは、文化財や歴史が言われるが、メタバースをつくる素材がたくさんあり、デジタル化しやすいとも思う。そうすれば世界からアクセスしやすいようにもできるので、そこにもフロンティアがあろうかと思う。内側から関西らしさを出す知恵を官民連携、学も入って色々考えていくというストーリーもあるのでは。

【第1部】

- 関西の利点は京都があり、緑豊かな地域もフルセットで抱えていること。
- 2015年に制定された琵琶湖の保全及び再生に関する法律の中で、琵琶湖は国民的資産と位置付けられている。
- 歴史があり自然が近いことが関西の魅力だが、それだけをもって多くの人に関西に来てもらうというのは無理がある。
- 官民連携に関して、関西は昔から先進地であったと言っても良い。民間が公共の精神をもってまちを発展させてきた地域は多い。官民連携のよき伝統がこの地にあることを伝えながら、次世代の官民連携を謳うべき。
- 現状認識が国内で閉じている。国際的なレベルで評価すべき。アジアの中で見ても、10年以上は遅れている。
- 製造業で元々日本が強いのは製鉄、化学工業などで、一番技術を持っている。日本は製品がよいので、これがマーケットを失うことはあり得ない。あと化学生成、化学工業が元々関西は強かった。
- 関西の場合、何を核の産業としているのかが見えず、右肩下がりの印象を受ける。
- 人口減少・少子高齢化の進展で、物流トラックや地方を支えるバスの労働力不足が課題。
- 地方の交通については赤字路線の問題もあり、地方交通のあり方を考えていく必要がある。

- 本社機能が関東に移転しており、大企業を誘致するのは無理という中で、関西の魅力をどう高められるかを考えないといけない。
- 関西の課題は、女性が働いていないことである。高学歴の女性がいるが、専業主婦やパートタイムの仕事に就いている。大学があるので学生はいるが、優秀な学生ほど就職の時に東京に行ってしまうのが課題。いかに関西の中で高い収入で働いてもらうかを考えなければならない。
- 本社機能が全て東京にあり、デジタル人材の輩出は東京が中心になっており、関西にはない。
- 大阪が水没すると、10万人単位での死者がでるリスクがある。

【第3部】

- 人手不足に対して自動運転の取り上げや幅広い人材の活用も考えていく必要がある。
- 空飛ぶタクシーを関西圏で飛ばしていくことは、一つ大きな目玉にもなりうる。未来の社会実験都市として夢洲が打ち出されているので、それとリンクした未来志向のインフラ投資の話も今からしておいて良い。
- 大阪・関西万博レガシーの具体化に移る。本計画でも、ペリエリアの再開発などポスト万博の方向性を書いておくべき。
- 関西文化学術研究都市の今後の方向性について、特記する必要がある。関西文化学術研究都市のひとつの特徴として、今後、道路や高速鉄道ネットワークにおける交通結節点という役割が強化される。
- 今から大企業の誘致は難しいので、スタートアップを支援し、優秀な若者が起業しようと思える機運をつくっていく、という方法もある。コロナ禍による良い点は、オンラインで働けるようになった点であり、そうした点も活用していくと良い。
- 関西の強みは様々な都市が近くて、医療ツーリズムにアクセスがいい。
- まちづくりの分野では人中心のまちづくりが世界的な流れになっているが、クルマ社会から脱却できていない状況。人中心の都市空間を売りにしていくことも、関西の計画としてはあり得る。
- 多様性について、ビジネスモデルやチャンスも多様でないといけない。多様な人たちが多様なビジネスをつくっていくようにしないとけない。
- 高齢者という言葉がネガティブにとらわれがちだが、活力ある元気なお年寄りもあり、農山村に行ってそうした人に会うと元気になる。
- 健康に関する視点や、子ども目線・子育て目線で将来的な視点での計画として、子供や若者の視点も入れていった方が良い。
- 関西強靱化・防災連携プロジェクトにおいて、関西でこれから何をやっていくかがわかるよう整理してほしい。
- 災害時には地域力や自助・共助というのが大事。
- 首都機能のバックアップについて、文化庁の移転などが先行事例としてある。
- 大阪では水辺空間、河川空間の活用もされており、これも加えて人中心を打ち出しても良い。
- 洋上風力について、関西は計画そのものがない。一番大きな水素を扱える企業を抱えているので、それを打ち出すのは必須。エネルギー戦略を大きく打ち出すことは経済の観点からも肝要。

- SDGs やサステナブルという言葉での観光も必要。
- 自家用有償運送を事業者と協力して進めるべきである。既に道路運送法の改正の中に示されており、後押しするべき。
- 観光において必要なインフラ整備は、旅行者にとっての安心・安全、清潔感、ハードによる魅力づくり。ソフトは民間も巻き込んでやるべき話であり、行政としてはハードによる魅力づくりが必要。
- 規制緩和とインフラ整備をしていくことが、オーバーツーリズム対策にもつながる。
- 京都への文化庁移転の話を入れて頂きたい。
- ストック型の国土計画からマネジメント型への転換という意味合いが大きい。文化財等のストックを上手く利活用していく、あるいは利活用可能なストックがたくさんあるという書き方が求められる。
- スポーツはただプロスポーツを見るだけでなく、人々がスポーツを応援する、またスポーツによって人が集まる面もある。例えば 2027 年に関西ワールドマスターズという大会が行われるが、スポーツツーリズムの発展や人が集まる起爆剤になる。
- 部活動の地域移行をスポーツ庁が進めているが、地域の方と共にすることでネットワークの広がりにもなる。そういった人がつながる、人を育てるというスポーツの活用の目線も必要。

【キーコンセプト】

- 内容を端的に示し、強いメッセージ性のある言葉を示さなければならない。
- 中心に人を置いた計画としたい。地域に活力を持たすというよりは、関西に来ると、人は活性化する、住民のみならず来訪者の活力を引き出すエリアだという観点で、キーワードなどを精査頂きたい。
- プロを使ってはどうか。
- 関西らしく、一般市民にも浸透しやすいものが良い。
- 「人・暮らし・資源の好循環」や「豊かな文化と自然」などのキーワードが入っていると良い。
- 適度な関西弁を入れられれば。